

令和3年度

藍住北小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○教員一人一人の授業力アップを目指し、個人差に対応した指導方法の工夫
 ○「主体的・対話的で深い学び」のための教材・教具として、ICTを活用した授業実践やオンラインでの授業のあり方について

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員委員
 校長・総括 堤 広幸
 教頭・総括補佐 山口 詳二 教務主任 友成 幸恵
 1年推進員 藤本 美恵 2年推進員 高原 まゆみ
 3年推進員 古林 博子 4年推進員 森本 真紀
 6年推進員 蘆住 聡子 少人数指導 近藤 恭弘
 特別支援担当 山田美江子 TT 担当 有田 桃子

校長

堤 広幸

小中連携または中高連携における共通の取組

主体的に学習に取り組む児童・生徒を育むためのICTの活用や指導方法の工夫改善

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

各学年での話し合いの機会をもつようにするとともに、知識・技能の習得については学期ごとに確認テストを実施する。研究授業の際には、本校の課題となる点について話し合うようにする。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「学びタイム」等での継続的な取り組みで、漢字の読み書きや四則計算などについては、ある程度の定着が見られる。 ●全体的に基礎・基本の定着は向上しているが、個人差が大きい。同じ間違いをしたり、文章問題の読み取りが苦手だったりする。	①当該学年での基礎的・基本的な技能を確実に身に付けることができる。 ②日常生活で、自分の考えや思いを正しい言葉で話したり、分かりやすく文章を書いたりできる。	①「学びタイム」(朝の活動)でドリル学習等を継続的にに行い、基礎的・基本的な学習の定着を図る。②ノートやワークをチェックする機会を定期的に設ける。 ③朝の会などでのスピーチや日記等で話す・書く活動の機会をとる。 ④低学年では少人数担当教員がT、TIにより児童のつまずきに対応する。 ⑤高学年では、授業交換や専科教員による専科指導を取り入れ、専門性を高めるとともに、児童の興味関心を高める。 ⑥5・6年生の算数科では習熟度別指導を取り入れ、得意な子も苦手な子もそれぞれの習熟度にあった学習環境を準備し、力を伸ばす。	①漢字・計算・読解などを継続し学習に取り組んでいるが、定着させることや、個別に対応するまでには至っていない学年もあるので、引き続き計画的に取り組んでいく。 ④少人数担当教員がT.Tや習熟度別学習(5・6年生)により、特に算数科の児童のつまずきには対応できているが、国語はまだ十分でないので、学年全体で取り組み方を話し合っていく。	①基礎的な学習を繰り返すことで学年により達成状況は異なるが、70～90%定着してきている。 ②ノートやワークのチェックを定期的なことで、個別に細かく指導できた。 ③朝の会などでのスピーチや日記等で話す・書く活動の機会をとり、個人差はあるが条件に応じて少しずつ内容にまとまりが出てきている。 ④低学年では少人数担当教員がT、TIにより児童のつまずきに対応することができた。 ⑤高学年では、授業交換による専科指導では教材研究が深まり、授業の充実が図られた。 ⑥5・6年生の算数科における習熟度別指導では、個別指導に役立ち、やる気が向上していた。	①「学びタイム」(朝の活動)の確保に向けて朝の準備がスムーズにできるように早い段階から指導していく。 ③スピーチや日記等、話す・書く活動を積極的に取り入れ、自分の思いを伝える意欲やスキルを高めていく。 ⑤授業交換をした学級では行事などでの授業時数の確保が難しいことがあったので、ゆとりをもった計画をする必要がある。 ⑥個に応じた指導を進めることはできたが、クラスによっては学び合いが十分ではないように感じた。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直に自分の思いを他者に伝えたいという気持ちを持っている児童が多い。グループ学習では、自分の思いや考えを発言でき、意見の交流で考えを深めることができる。 ●課題や目的に応じて聞き取ったり話したりする力に課題がある。授業中に発言する児童に偏りがある。また、語彙が少なかったり、自分の考えを分かりやすく発表したりするのが苦手であるため、十分に伝えきれないことがある。	①場に応じた話し方や声の大きさを自分の考えを進んで話すことができる。 ②要点を押さえ、話を最後まで聞いたり、読み取ったりすることができる。 ③自分の考えをまとめ、根拠をもって説明することができる。	①授業の中で、自分の思いや考えを説明する場面を確保する。 ②グループ活動や話し合い活動を適宜取り入れ、個に応じた発言の機会をとる。 ③ICTを活用し、聞き方や話し方の例を示したり、注目すべき点を確認したりする。 ④大学連携強化、学校力向上推進校事業やメンター制を活用し、初任研や講師などの若年教員の力を伸ばしていく。	①場にあった声の大きさを発表できる場を設け、自信をもたせていく。 ②自分の考えをまとめる時間を設け、話し合い活動に生かせるようにする。	①自信がもてずに発表するとき声が小さい児童や進んで話すことが苦手な児童がいる。 ②感染予防のため、限られた回数にはなったがグループ活動を取り入れると、自信をもって発言できる児童が多く見られた。 ③SWPBSでICTを活用したことにより、話を最後まで聞く児童の割合が向上した。 ④大学連携強化、学校力向上推進校事業やメンター制を活用することにより、若年教員とともに教材研究に当たる時間をもてた。	①発表が苦手な児童にはまずノートに書かせるなどの手立てを工夫する。 ②感染対策を取りながら、学習の内容に応じてペアワークやグループでの活動を実施していく。 ③話を最後まで聞くことができるよう取り入れてきたが、話の要点をつかむことが難しいので、聞き方の指導をしていく。 ④若年教員の意見も取り入れながら、全教職員が主体的に研修に関わるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○新しく学ぶことに対して興味関心が高い。与えられた課題や学習には、真面目に落ち着いて取り組み、やり遂げることができる。 ●自分から進んで課題を見つけて取り組むことが苦手である。家庭での読書時間が少ない。少し難易度が上がると、諦めてしまいがちになったり集中が続かなくなったりする傾向がある。	①読書や家庭学習に進んで取り組み、課題を確実にできる。 ②自分の課題を見つけ、解決のために積極的に取り組む。 ③自分の課題に対して諦めずに最後までやり遂げることができる。	①朝の読書、週末の家族読書等で読書の時間をとる。 ②ICTを活用し、興味関心をもたせ、課題解決へ取り組む意欲を高める。 ③できたことを肯定的に評価し、意欲付けをするとともに、家庭学習の取り組み方を具体的に示し手本となる事例を子どもや家庭に知らせる。 ④授業準備や机上整理をすませ、チャイムと同時にスムーズに授業を開始できるようにSWPBSを用いて児童の主体性を高め、授業に取り組む態度を学校全体で定着させる。	①読書の習慣を身に付けさせるために、友達と本の紹介や友達と読んだ本の意見交換などをして、色々な本に関心をもたせる。 ②ICTについての興味関心は高いが、教員・児童ともにまだ効果的な活用ができていないので、学校全体で研修を積む必要がある。 ④SWPBSへの意識が高まり、授業準備が定着してきたので、話の聞き方について学年ごとに目標を設定しすすめている。	①週末読書等で本に親しむ児童が増えてきているが、利用頻度に差がある。 ②ICTについては、教員・児童が活用することができているが、利用頻度に差がある。 ③長期休業中には、自主学習の手引きを児童に配布したり、学年だより等で家庭学習について知らせる機会をもってきたりする。 ④授業準備はだんだん定着率が高くなってきており、すぐに授業に集中できるようになってきた。	①並行読書に意欲をもつ児童も見られたので、単元に関わる本を児童に紹介する機会をもつ。 ②児童も教師もICTを積極的に活用するとともに、学校全体で活用方法について研修を積む必要がある。 ③手引きについては、各学年での取組を全校で共通理解する必要がある。 ④SWPBSで取り組んできた机上整理や授業準備等、全校での取組を継続していきたい。

令和3年度 学力向上ロードマップ

4月 5月 6月 7月 8月

